

令和6年度 浜松市立入野中学校 学校評価報告書

P(計画)

D(実施)

C(評価)

A(改善)

説明責任

自己評価

【生徒・保護者・地域の状況】		
項目	優れている点	伸ばしたい点
生徒の学習の様子	・「授業は、分かりやすく内容を理解しやすい。」と答える生徒が85%と多く、学習に対して肯定的なイメージを持っている。	・生徒が自分の学習状況を自分で把握し、考えて学習を行う習慣を身に付けさせたい。そのために、生徒の学びに向かう姿勢向上を意識した単元計画、授業展開を研修するなどして、授業改善を図る。
生徒の学校生活の様子	・素直な生徒が多く、行事等にも熱心に取り組むことができる。学校での成長感も92%と肯定的。 ・「学校に安心できる場所がある。」と答えられる生徒の比率が89%と高い。	・いじめの認知数は比較的多いので、生徒にとって、より安全・安心で居場所のある学校づくりを推進していく。そのために、教育相談体制等の改善・充実や生徒の対人スキル向上を図る。
地域保護者連携について	・PTAや健全育成会の組織が活発で、学校に協力的である。	・ホームページやブログ、各種たより等で学校の様子を伝え、関係者の協力を仰ぐことで、開かれた教育課程の構築を目指す。

【達成目標】
○学校評価アンケート(生徒版・保護者版)における学習・生徒理解・地域連携に関する各設問での肯定的な回答の割合80%以上。

【生徒・保護者・地域との関わり向上に向けての取り組み】

- ふるさとで学び、地域の一員として貢献できる生徒を育てる。また、地域人材との積極的交流を通してキャリア教育の充実を図る。
 - ・外部団体、人材の積極的な活用(防災学習、SDGs学習、生き方学習)
 - ・地域交流の拡大(体育大会、火伏せの集い、校外学習、職場体験、ボランティア活動)
 - ・地域活動への生徒の積極的な参加
- 生徒一人一人に寄り添った指導による生徒理解(とことん関わる)(誰ひとり取り残さない)
学校規模が大きく、職員の数が多いので、一人の生徒に多くの職員がかかわれる半面、情報の共有面に不安がある。そこで、校務支援ソフトを有効活用することにより、職員の共通理解や生徒支援委員会等での活用を図る。また、生徒の対人スキルの弱さから、様々なトラブルにつながる面も見られるので、生徒個々との関わりを深める中で、それぞれに合った支援を行い、その伸長も図りたい。
- 保護者・地域との関わり向上
学校と家庭・地域が緊密な連携を図ることができるよう、情報公開を行う。また、各種アンケートを実施し、PDCAサイクルを意識化し、改善点に迅速に対応する。

学習指導

【R6学校評価アンケートより】 (R6. 12 実施)
(生徒)
○授業は分かりやすく、内容を理解しやすい。 85.0%
○先生は分からないところ、質問に丁寧に答えてくれる。 94.5%
○家庭で課題以外の学習に意欲的に取り組んでいる。 68.8%
(保護者)
○授業を通して、基礎的な学力を身につけている。 70.8%
○生徒は家庭で課題以外の学習に取り組んでいる。 47.3%

生徒理解

【R6学校評価アンケートより】 (R6. 12 実施)
(生徒)
○学校での活動を通して、成長していると感じる。 92.9%
○学校に安心できる場所がひとつはある。(いじめ防止) 89.3%
○嫌なことがあったとき、助けになってくれる人が学校にいる。(いじめ防止) 91.0%
○理想とする生き方や夢、目標をもっている。 76.4%
○自分の良いところを知っている。 80.6%
○先生は、学校生活の中でよく声をかけてくれる。 91.2%
○学校に行くのが楽しみである。 82.3%
(保護者)
○学校での生活を通して成長していると感じる。 90.2%
○学校はお子さんに声をかけてくれていると感じる。 86.0%

地域保護者

【R6学校評価アンケートより】 (R6. 12 実施)
(保護者)
○学校行事は、お子さんの成長を促すものになっている。 91.9%
○学校は情報をわかりやすく発信している。 95.6%
○学校は相談しやすい。 87.8%

学校関係者評価

＜学校運営協議会より＞ (R7. 2 開催)
・「学校に来ることが楽しい。」ことが一番大事。授業が面白いことが、評価につながっていると考えるとい評価がでている。
・ひふせ学級の生徒や保護者の評価が高いことから、一人ひとりを大事にしている学校の取組や雰囲気が分かる。
・「とことん関わる」を実践し、生徒と濃密に関わってきたことが成果に出ている。
・ブログで学校の様子をたくさん発信してくれているので、保護者が見て安心する材料になっている。
・学校公開日の参加が少なくても、学校に対する安心感満足度の表れとも考えられる。学校公開日の参加を増やすために、時間の都合や曜日を工夫してみることも必要
【いじめ防止について】
・いじめは子ども同士のことなので、生徒自身がいじめについてどう考えるかが大事。いじめについての学習や話し合いの機会を設定する。
・人それぞれの価値観の多様化を考えると事例等をの情報を発信することも必要。

改善策

- 生徒一人ひとりに対して教員が丁寧に(とことん)関わり、生徒理解を基本とした指導に努める。すべての生徒にとって「安心・安全な学校」を目指す。
- 人間関係プログラムを年間通して、定期的に組み込む。
- 毎月の学校公開は来年度も継続。参観の人数というより、子どもの様子を見てもらえる機会を作り続けることを大事にしたい。
- 職場や家庭の都合に合わせてやすくなるように、学校公開日、開催3日間の曜日をずらす。
- 【いじめ防止】
- 子ども理解、いじめ防止に関する教員研修の機会を設定する(4月・5月・8月)
- タブレットアンケート、紙面アンケート、生徒との会話、生活の様子などに気をくばり、いじめを見逃さない環境づくりを整備する。
- 生徒会、学年委員会と連携し、生徒発信の活動を取り入れる。